

## 原油高時代に脚光を浴びる“自転車”

ソウル駐在員事務所

秘書 洪承元

世界的な原油や原材料の高騰により、韓国の消費者物価指数は5月、前年同月比4.9%上昇して7年ぶりの高水準を記録しました。国内産業がコスト高により悲鳴をあげる中、原油高時代を生き抜く庶民の“足”となり、成長の勢いが止まらないのが自転車産業です。

元来、韓国人は自転車を気軽に乗るほうではありませんでした。バス、地下鉄、自家用車、タクシーといった交通手段が中心で、通勤通学や近所の買い物などに自転車を利用することは少なかったのです。特に女性が自転車に乗ることを好まない保守的な考え方も残っていたため、大人になっても自転車に乗れない女性も多いようです。

しかし最近では、ガソリン価格の上昇に伴い自転車で出勤する人が増えています。これらの人々を称して「自出族(자출족)」という言葉も生まれたほどです。通勤通学だけでなく、数年前から週休二日制の定着によるレジャーとして、また健康ブームにより自転車への関心は高まっていたため、ここに来て俄然脚光を浴びるようになったのです。



現在の韓国の自転車市場規模は200万台ですが、2001年は100万台でしたから6年間で二倍に成長しました。販売量はここ数年、年15%以上の成長をみせています。当然生産量も増えるわけですが、国内の大手自転車メーカーは経営合理化をすすめた結果、国内の生産工場を全て海外に移転させOEMや中国等の現地工場で行い、実は国内生産はゼロです。こんなところに、産業の空洞化問題をみることができます。



人気が高いのはMTB(マウンテンバイク)で、高価格帯の商品が伸びており、メーカーも高級ブランドを前面に押し出したマーケティング戦略を展開しています。中には自動車の価格と変わらないものもあります。また、タウン用として折り畳み式のものやロードレース用など商品も多種多様になりました。

ライフスタイルの変化や原油高という経済的理由などもありますが、環境に優しい面もあり、これからもブームはまだまた続きそうです。